

よろしくお願ひします

新入職員

3月下旬の寒波を忘れさせるくらい温暖な気候となりました4月1日、新卒11名、既卒6名の17名のスタッフが新たに大久保病院の一員となりました。新型コロナウイルスが猛威を奮う中、敢えて厳しい医療業界を志し、様々な規制がある中勉学に勤しみ、かつ乗り越えてこられた11名の方、その間の厳しい医療現場で奮闘され、その荒波を進んでこられた6名の方を新たに迎え入れる事が出来て、私達も大変喜ばしく思っております。

新型コロナウイルスの流行の波は徐々にそのピークが弱まり、同じく4月1日より通常の医療体制に完全移行しましたが、麻疹やインフルエンザなどの新たな流行の兆しや、感染症とは異なりますが「紅麹関連製品」の健康被害など、我々日本人の健康を脅かす社会問題は跡を絶ちません。それに比例して医療の重要性は増し、我々医療従事者の使命もより強いものが求められます。新しい17名のパワーをより強い追い風とし、これからも職員全員で地域医療に貢献し得る病院を築き上げていきましょう。



特定医療法人 誠仁会

大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1

tel. (078) 935-2563



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス
- ②のりば 19「山手台」行き
- ③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分

大久保病院だよりはホームページでもご覧になれます



◀Instagramはじめました

地域医療に想いをかけて

特定医療法人誠仁会

大久保病院だより

2024年
5月13日
春 No.53

編集・発行 | 特定医療法人誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078 (935) 2680 FAX078 (935) 2684

地域密着に向けて さらなる連携強化!



地域医療内科医師が着任しました

内科 春木 茂紀

4月16日に着任した春木茂紀です。

18歳まで大阪で過ごし、金沢大学(薬学)を卒業し、薬剤師として札幌、栃木、京都の調剤薬局で勤務し、その後、海外ボランティアでアフリカのタンザニアで2年過ごしました。帰国後に神戸で過ごした後、弘前大学(医学)に編入学し、卒業後、青森県の総合病院の救急外来、関連病院の診療所で7年間勤務してきました。大久保病院では、地域医療内科の医師として一般内科の外来、救急、往診の

一翼を担えればと考えております。

薬剤師から医師となり、それぞれの仕事を経験したことから、マルチモビディティ(2つ以上の慢性疾患が一個人に併存している状態)に対するポリファーマシー(多剤併用による有害な事象)予防に力を入れております。近年日本人の平均寿命が延びており、基礎疾患を多数抱える方が多くなってきております。複数の科から薬が多数処方されている方の減薬について、相談にのらせて頂ければと思います。

地域医療連携室のご紹介

地域医療連携室は医療連携・入院支援・退院支援の役割を担い、地域住民のみなさまに安心した医療を提供するために、医療機関・介護施設との調整・連携を行っています。

医療ソーシャルワーカーは患者様とご家族のご意向を伺い、患者様の退院・在宅復帰に向けて院内外の多職種連携を行い支援しています。

外来の患者様へも他機関との連携窓口となり、ご相談をお受けいたします。

何かお困りごとがありましたらご相談ください。

お気軽に
ご相談ください



多職種連携で安心して 入院・退院ができるように

新しい病棟 「東館」の 紹介

新しく始動した東館は、内科急性期病棟の2階東病棟37床と、外科系急性期病棟の3・4階東病棟57床からなります。

内科急性期病棟の特色としては消化器内科・外科、呼吸器内科、循環器内科、脳神経外科があり、糖尿病の教育入院や心臓カテーテル治療も行っています。新病棟になり陰圧室も設備され、感染症の患者様の受け入れもしています。

外科系急性期病棟は、主として周術期～リハビリ期を担っています。対象科は整形外科、外科、婦人科、麻酔科がメインとなります。整形外科疾患とし

ては上下肢骨折、脊椎疾患、人工関節置換術、外科は上部・下部消化器疾患、婦人科疾患は子宮や付属器切除などがあります。術後、早期回復できるように痛みのコントロールを行いながら、清潔援助やADL（日常生活動作）の拡大を行っています。理学療法士の介入も多いので、他職種と連携しながら看護を行っています。

患者様が安心して入院生活が送れるように、質の高い看護を目指し実践しています。また、患者様が安心して在宅へ退院できるように、地域医療連携室と情報交換しながら退院支援を行っています。



健康診断を受けた後に

新年度に入り、雇入時や定期的健康診断を受けられる方も多いのではないのでしょうか。健康診断は、受診後の結果に基づく行動がとても重要です。ご自身の健康をよりよく保つために、健診後に気をつけたいことを次にまとめました。



- 再検査、要精密検査、要医療と判定されたら迷わず受診してください。異常があっても早期であればあるほど治療の効果は上がります。
- 経過観察の所見があれば、食事・運動・アルコール・睡眠などの生活習慣を改善したうえで、かかりつけ医に相談し、必要に応じて再検査を受けましょう。
- 異常なしの場合でも、異常に近づきつつある「予備群」であることも考えられます。年に1回は健康診断を受け、データの変化に注意することが大切です。

リハビリ通信

リハビリテーション科

第5回

ソックスエイドの紹介

腰や股関節を痛めたり、妊娠などで靴下が履きにくくなったりすることがあると思います。そこで、靴下が簡単にはける便利な自助具の作り方を紹介します。

作り方



・材料：PP(ポリプロピレン)シート
紐

- ①PPシートを上図の形に切る。
- ②紐を通す所にパンチで穴を開け、紐を通す。

使用方法

- ①靴下をくぼみまで入れる。足先はしっかり入れておく。



- ②両手で紐を持ってまっすぐ足を入れる。
↓
両手で紐をゆっくり引く。